

令和 2 年度 墨田区立第二寺島小学校 経営計画書

校長名 中村 奈緒美

学 校 目 標	豊かなつながりと挑戦の中で、知・徳・体の調和のとれた児童を育む学校 ・よく考えて工夫する子 ・思いやりがあり助け合う子 ・体力のある元気な子 ・ねばり強くやりぬく子
目指す学校像	TEAM 二寺 ～元気と勇気と思いやり 明日に挑戦する学校～
目指す子供像	<ul style="list-style-type: none"> よく考えて、工夫する子 「自ら考え表現できる児童」 基礎・基本や学び方を身に付けている子 自ら問いや課題を見付け、工夫して遊び学び行動する子 思いやりがあり、助け合う子 自己肯定感・自己有用感をもつ子 自他を大切にし、おもいやりある行動がとれる勇気のある子。 体力のある、元気な子 遊び・運動が好きな子 健康のため自己管理ができる子 ねばり強く、やりぬく子 仲間や地域のために自己の能力を発揮する子 リーダーシップ・フォロアーシップをもつ子
目指す教師像	教職員の基本姿勢 「学校は子供たちのためにある」「1人ひとりの良さを引き出す指導」 ○いじめを絶対に許さず、偏見や差別をなくす人権尊重教育の徹底に努める。 ○特別支援教育への理解に努め、一人一人の良さを引き出し、勇気づける指導を進める。 ○保護者と共に、児童の成長を喜び合う。 明るさ温かさを根底にしなが、子供の思いを受け止め、良いことと悪いこととを明確に教え、根気よく励ます。(体罰・暴言はあってはならない。) ○分かる・できる喜びのある授業・教育活動を追求し、日々研究・研修に努める。 ○保護者・地域と温かい関係を築き、共によりよい教育環境・居場所を創造する。 ○組織的に協働し、プラス思考で発信できる。

項目	取組の視点	取組目標	成果指標
各教科等指導等	確かな学力を育てるための分かりやすい授業の実施等	◎授業時数を確保し、学習内容の精選と重点化により、当該学年の目標を達成できるようにする。 ◎教員の授業力向上 主体的、対話的、深い学びに向けた授業改善 ・校内研究（生活科・理科）を重点に 校内研究授業と年間3回以上の授業観察により授業力が高まる。校内環境が整備される。 ・校内での授業交流、各自2回以上 ・区の研究会への参加100% 専門性を磨き、授業研究の発信を行う。 ・授業力向上の研修など、積極的に参加する。特にICTの活用を授業で進める。 ○新学習指導要領の完全実施に向けて、カリキュラムマネジメントを進め、指導と評価の一体化を目指す。	・授業時数の確保と、学びの場としての環境づくりが進み、標準授業時数に近づく。 ・ねらいを明確にした授業改善が進む。児童の授業への満足度8割以上 ・読み解く力・書く力の向上、学びの姿勢が育つ。 ・全学級で課題解決型の授業が実施される。 ・全学級でICT活用の授業が実施され、児童が家庭でも使えるようになる。 ・時数確保が進み、児童に基礎基本が定着し、自ら学ぼうとする意欲が高まる。

	<p>特別な支援を必要とする子供に対しての組織的な支援等</p>	<p>○校内特別支援教育の充実 ・毎月の特別支援委員会を中心に個々の児童に合わせた支援のための個別指導計画を作成し、合理的な配慮のもと体制を整える。 ・毎週の生活指導夕会等での全職員への情報共有を行う。校内研修を実施し、配慮児童への理解と、指導力の向上、ユニバーサルデザインの理解と環境づくりを目指す。 ○特別支援学級の充実 安定した運営を進める。(支援の充実、環境づくり、交流授業) 専門家のアドバイスの元、アセスメント・分析・手立て・振り返りの流れが作られる。</p>	<p>・特別支援教育への理解が進む。 児童の安心感、集中度を上げる環境づくりが進む。学級が落ち着き、学級への帰属感が高まる。 ・児童同士の関係がよりよくなり、学習意欲も高まる。 ・連携が進み、支援体制への児童・保護者の満足度があがる。 ・個別の指導計画が充実し、児童の成長につながる。</p>
	<p>社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育等</p>	<p>○粘り強くやり抜く子の育成 ・年間を通した、縦割り班活動他異年齢での活動委員会・係活動・当番活動・登校班等の取組 ・幼保小中一貫教育を目指した連携事業実施。(スタートカリキュラムアプローチカリキュラムを進める。ICT活用連携を進める。) ・制限がある中でも、豊かなかわりの中で体験的な学習を工夫して進め、将来の夢をもったり、自己実現への意欲を育てたりする。</p>	<p>・児童の自己肯定感が高まる。 アイチェックでのポイントが上がる。 ・組織的・計画的に小1プロブレムや中1ギャップへの対応が進む。 ・出前授業や仕事調べなどを通して、自分の将来について意欲的に考え、夢や見通しをもつことができる。</p>
	<p>問題行動の予防や解決に向けた組織的な取組等</p>	<p>○いじめ防止方針案にのっとり、いじめの早期発見早期解決に取り組む。 ・年間3回以上のいじめ防止の授業実施。 ・いじめ・不登校対応委員会を中心に、教職員全員での関わり、毎週の生活指導夕会での全職員への情報共有をもとに、即時対応する。(理由の判明しない欠席2日で連絡対応) ・SC・SSWほか関係機関との連携を組織的に進め、児童のメンタルヘルスや学校への適応を早期に改善していく。</p>	<p>・いじめの早期発見早期解決が進む。不登校の防止が進み、欠席配慮児童が改善される。 ・児童の学級・学校への満足度が上がる。 ・児童の意欲の向上・自己肯定感が向上し、不安感等による欠席日数が減る。</p>
<p>生活指導等</p>	<p>基本的な生活・社会習慣、人間関係作りのための心の教育等</p>	<p>○基本となる「時間」「礼儀」「責任」を大切に、児童が学校生活を作る。 ・後期ノーチャイム、委員会・係活動・当番活動・登校班の取組 ・登校班による、安全な登校を進める。保護者と連携し、班長・副班長の児童を支援しながら、集団での安全な行動様式を身につける。 ・身に付けるべき生活のルールを全教職員で確認し、年間を通して、段階的に指導する。(学校生活のルール、3密を避ける、熱中症への対応など、さん、くん付け、呼名等) ・児童のよりよい関係づくりを目指し、相互に認め合い励まし合う活動を計画的に実施する。</p>	<p>・後期はチャイムを減らし児童が行動できる。 ・活動の振り返りを行い、各自が成長を実感する。(振り返りカード) ・言葉遣いなど意識し、思いやりある言動が増える。 ・児童の規範意識が高まる。 ・アイチェックで学級への帰属感や、自己有用感が高まる。</p>
	<p>安全を確保するための取組等</p>	<p>・感染症予防・セーフティ教室 不審者対応、薬物乱用防止などの学習を進める。 ・インターネット・ソーシャルメディア等の関り方の学習を進め、SNSルールを実践する。 ・避難訓練(様々な想定場面での訓練)</p>	<p>・児童に自分で自分を守る意識や実践力が育つ。 ・SNS などにおけるルールが児童に身に付き、トラブルが解消する。教員の緊急時の対応力が向上</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・安全指導日の指導の充実 保護者と連携した登下校訓練。 ・食物アレルギー対応の体制が強化され、研修と教員のシミュレーション訓練年3回実施 	<p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から、情報共有や改善が進み、重大事故にしない体制ができる。
	<p>子供や保護者からの意見や要望への対応等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担任や副担任が、保護者・児童とつながり、相談しやすい雰囲気作りをしていく。担任一人ではなく、チームで動く。相談された内容を情報共有し、その後の対応策を即時に確認し実施する。(いじめ防止対策委員会他) ・家庭訪問や個人面談・保護者会など目的に応じて、意見要望を聞き取るような場面設定を行う。 ・SCへの相談など奨励する。SCの4~6年生の全員面接を実施する。 ・行事・授業アンケートは随時。学校の保護者アンケートを11月に実施する。 ・アイチェックを分析し、児童の学校への帰属意識を高め、安心安全な学習環境を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が開かれているとのアンケート回答が9割以上となる。 ・学校の対応に理解が進む。情報が入りやすくなる。教師の折衝力や対応力が向上する。 ・SC活用の機会が増え、児童への支援が強化される。 ・児童保護者の意見要望を取り入れた、教育活動が進む。 ・アイチェックの7月11月の結果から対応が進み、学校への満足度が上がる。
<p>学校の管理運営</p>	<p>経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主幹主任教諭・事務による、校務改善と教育活動の活性化を進める。 ・経営会議・企画会を充実させ、計画的で組織的な提案をさせる。実施後は即時見直しを次年度に向けて行う。 ・週案をもとに、計画的な教育活動を進める。 ・ジョブローテーションによる、分掌組織の活性化各自の仕事の効率化を進め、守備範囲を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的・組織的な対応が進み校務の見直しから、教育活動の取組の達成度が上がる。 ・チームでの動きが常となり、教育活動が効率的に進む。 ・授業時数の確保が進み、計画された教育活動の達成が見込める。 ・分掌での仕事の達成度が上がる。
	<p>子供の実態に合わせた教育目標設定及び評価等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態を明確にし、学校の教育目標の達成に向け児童像を決める。学級の目標や、教員の自己申告に反映させる。 ・指導と評価の一体化を図り、評価基準を明確にし、児童や保護者に分かりやすい提示を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルでの学校運営が進み、課題や改善点が明確になる。 ・到達目標が明確になり、取組への意欲や関心が高まる。
	<p>教育環境・設備等の整備状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの環境整備を進める。活用研修を行う。 ・さらに学校の環境整備・美化を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTによる授業改善が進み、活用度が上がる。 ・環境整備・美化が進む。
<p>家庭・地域連携</p>	<p>教育方針や日常の教育活動の様子などを伝える取組等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報メールの活用随時 ・フォームス等の情報収集を分析活用し、その都度修正案を立てていく。 ・毎月の学校便り・学年便り等での発信。HPの充実、毎週更新3回以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPでの発信が2割以上増える。 ・保護者アンケートで情報発信への肯定的なポイントが上がる。HPの閲覧数が上がる。
	<p>保護者や地域の理解や協力を得た教育活動の推進等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のより良い学習環境づくりや、安全・感染予防・地域防災・など、喫緊の問題解決のために、具体的なチームを作り改善に取り組む。 ・学校支援ボランティアを立ち上げ、児童への支援の体制を強化する。(ICT・授業支援・家庭学習支援・検定・図書整備・植栽の環境整備) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育活動への理解が進み、協力者が増える。

